

但馬の野鳥から 見えてくるもの

但馬コネクション 第1回セッション
2013年3月15日

高橋 信

tajimori@TAJIMANIA Sanctuary
<http://tajimania.com>

1

プロフィール

- 1954年8月8日生まれ
- 中田孝一君との43年前の出会い
- TAJIMA Connectionの思い出 (1990's)
- TAJIMANIA Sanctuary主宰(since 1997)
- NPO法人コウノトリ市民研究所理事
 - ・ 1998年発足、2004年NPO法人化
 - ・ 主任研究員、情報局長

2

野鳥に興味を持ったわけ

- 豊高生物部時代
- 大学時代は山歩きのサークルへ
- 山を歩きながら楽しめる生き物が鳥だった
 - ・ 採集しなくてもよい
 - ・ 標本を作らなくてもよい
 - ・ 声だけで相手がわかる

3

最初の野鳥写真

- 銀塩一眼レフで円山川堤防のトビを撮った



【撮影データ】 31/Aug/97,PENTAX-KX with SIGMA70-300,FUJI-RIALA/100

4

コンデジを双眼鏡に当てたら

- 大きく写った！



【撮影データ】 10/Jan/99,DSC-V100(+8倍双眼鏡)

5

スコープに当てたら

- 世界が変わった！



【撮影データ】 16/Jan/99,DSC-V100(+NIKON Field Scope 20x)

6

gakuさんとの衝撃の出会い



Animals' Eyes
動物の目で環境を知る3
「明るい夜」より
自然界の報道写真家
宮崎 学

2000年4月 但馬学研究会10周年事業記念講演
「自然からのメッセージ」

7

写真は視覚言語である

- 視覚の冒険
- 時代性
- 複眼思考



動物写真の2面性

- 凶鑑写真
- メッセージ

8



コサギ(ベリカン目サギ科 Little Egret)
【撮影データ】 18/May/03, COOLPIX5000+TSN-824M

9



コサギ(ベリカン目サギ科 Little Egret)
【撮影データ】 11/Feb/11, D90+SIGMA10-20mmF4.0-5.6

10



ハヤブサ(ハヤブサ目ハヤブサ科 Peregrine Falcon)
【撮影データ】 07/Mar/13, D7000+VR300mmF2.8

11



ハヤブサ(ハヤブサ目ハヤブサ科 Peregrine Falcon)
【撮影データ】 07/Mar/13, D7000+VR300mmF2.8

12

豊岡盆地の旅鳥

春と秋の渡りの季節、豊岡盆地をたくさんの鳥が通過してゆきます。毎年同じ時期に同じ場所で、同じ鳥に出会えます。シギやチドリにとっては、川の浅瀬や湛水田といった湿地が、休憩場所や餌場として重要な役割を果たしています

13



ヤツガシラ(ブッポウソウ目ヤツガシラ科 Hoopoe)

【撮影データ】 22/Mar/10, D90+VR300mmF2.8

14



ノビタキ(スズメ目ヒタキ科 Stonechat)

【撮影データ】 08/Apr/12, D90+VR300mmF2.8

15



コムクドリ(スズメ目ムクドリ科 Violet-backed Starling)

【撮影データ】 30/Apr/11, D90+VR300mmF2.8

16



ノゴマ(スズメ目ヒタキ科 Siberian Rubythroat)

【撮影データ】 29/Apr/08, D2X+VR300mmF2.8



17



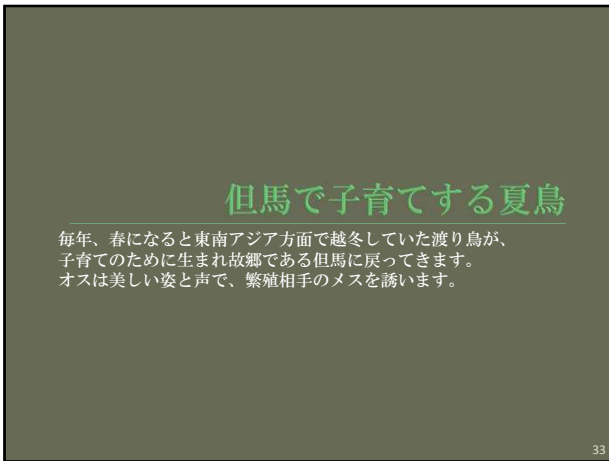
アオアシシギ(チドリ目シギ科 Greenshank)

【撮影データ】 05/May/10, D90+VR300mmF2.8

18











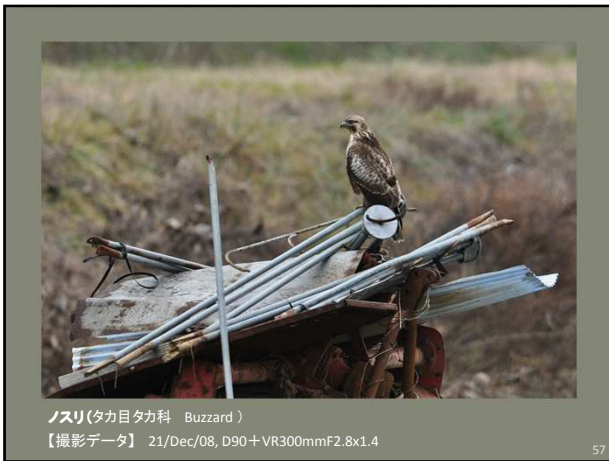
但馬で冬を越す鳥

本州中部以北や大陸北東部で繁殖する野鳥の多くは、秋になると南下してきて一冬を過ごします。彼らが渡りをする理由は、氷や雪で寒いからではありません。あくまでも、必要な餌を確保するのが目的です。豊岡盆地周辺で見られる冬鳥のいくつかを紹介します

46









但馬で一年中暮らす鳥

渡りをせず、同じエリアで1年中暮らす鳥を留鳥といいます。
スズメ、カラス、トビなど、私達の暮らしに最も身近な鳥達のほかに、多くの鳥が暮らしています。

64









但馬の野鳥から見えてくるもの

- 鳥の道
→ 継続的な定点観察
- 但馬の自然の豊かさ
→ 森・川・海の連続性と生物多様性
- 人と自然の関わり
→ 破壊と創造
→ 生きものたちの適応力

80

